

使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

みのる シート巻取機

W-72

取扱説明書



みのる 産業株式会社

機械使用上の重要安全ポイント

1. 燃料を補給するときは、
必ず **エンジンを停止** し **火気厳禁** とします。


2. エンジン始動時には、
必ず **クラッチレバーを「切」** にします。

3. 作業中は、
機械の周りに人を近づけない ようにします。

4. 補助者と共同作業をおこなうときは、
合図をし安全を確認 します。


5. 機械を点検・調整するときは、
必ず **エンジンを停止** します。





この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で守っていただきたい事項に  を付けて説明しております。

よくお読みいただいて、必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

- この度は、【シート巻取機】をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- この【シート巻取機】は、農業用ビニールシートの巻取り作業、及び張り作業を行うための機械です。他の用途には、絶対使用しないでください。
- 本書は、【シート巻取機】を使用する際に、守っていただきたい安全作業に関する基本的事項並びに【シート巻取機】を適切な状態でご使用いただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成してあります。
- 【シート巻取機】を初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも入念に読み内容を十分理解された上で、安全・確実な作業を心掛けてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- 【シート巻取機】を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を【シート巻取機】に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上の観点から、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び、写真・イラストなどの一部が本機と一致しない場合がありますが、あらかじめご了承ください。
- もし、ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げいただいた販売店へご相談ください。
- 取扱説明書の中の  **重要** 表示は、下記のように安全上、取扱い上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

| 表 示 | 重 要 度 |
|---|--|
|  危険 | その警告に従わなかった場合、死亡事故または重傷を負うことになるものを示しております。 |
|  警告 | その警告に従わなかった場合、死亡事故または重傷を負う危険性があるものを示しております。 |
|  注意 | その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。 |
|  重要 | 商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。 |

目次

| | | | |
|---------------------|----|-------------------|----|
| 安全のポイント | 1 | 点検整備 | 18 |
| 安全な作業をするために | 1 | 定期的な点検整備 | 18 |
| 安全表示ラベルについて | 3 | 点検整備一覧表 | 18 |
| 安全表示ラベル貼付位置 | 3 | 燃料フィルター・燃料パイプの点検 | 18 |
| | | 点火プラグ・エアクリーナの清掃 | 19 |
| 保証とサービスについて | 4 | 減速ミッションオイルの点検 | 19 |
| | | チェンの点検 | 20 |
| 各部の名称と働き | 5 | クラッチワイヤーの点検 | 20 |
| 各部の名称 | 5 | アクセルワイヤーの点検 | 20 |
| 各部の働き | 6 | | |
| | | サービス資料 | 21 |
| 作業前点検・運搬のしかた | 7 | 主要諸元 | 21 |
| エンジンの始動と停止 | 7 | オプション部品 | 22 |
| 注油箇所 | 8 | チェン80L・巻取スプロケット14 | 22 |
| 移動のしかた | 8 | ロール中36CP（VP用） | 22 |
| | | アース棒CP | 23 |
| | | | |
| 作業のしかた | 9 | | |
| 作業前準備 | 9 | | |
| ロール（外・中）・ロール受について | 9 | | |
| ロール（外・中）の取り替えかた | 10 | | |
| ロール受ボスの取り替えかた | 10 | | |
| パイプ固定座の調節のしかた | 11 | | |
| 巻取フレーム左の調節のしかた | 11 | | |
| スタンド固定座の調節のしかた | 12 | | |
| 本機の固定・運搬のしかた | 13 | | |
| 作業の手順 | 14 | | |
| シート巻き作業 | 14 | | |
| シート張り作業 | 17 | | |
| 長期格納時の手入れ | 17 | | |

安全のポイント

安全な作業をするために

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読し、安全に使用してください。

■ 運転者の条件

(1) はじめに

作業を始める前に、この『取扱説明書』をよく読むことから始めてください。これが安全に快適な作業をするための第一歩です。

(2) 体調について

飲酒時や過労ぎみの時は、作業しないでください。このような時に作業を行うと、誤操作等で思わぬ事故を引き起こします。必ず心身とも健康な状態で作業してください。

(3) 服装・防護メガネについて

作業する時は作業に合わせた正しい服装をしてください。服装が悪いと衣服が回転部等に巻き込まれたりして大変危険です。

(4) 人に機械を貸す時は

機械を貸す時は取扱方法をよく説明し、使用前に『取扱説明書』を熟読するように指導してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こすことがあります。

■ 作業を開始する前に

(1) 無理のない作業計画で

無理・無駄のないゆとりある計画を立てましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

(2) 安全カバー類の装着確認

機械を運転する前、安全カバー類が外れたままになっていないか確認しましょう。外れたまま作業すると回転部に巻き込まれて傷害を負う恐れがあり危険です。

(3) 燃料補給時は火気厳禁

燃料を補給する際は、エンジンを必ず停止し、くわえ煙草等は絶対しないでください。機械のまわりに火の気を近づけず、火気厳禁で燃料を補給してください。守らなかった場合、火災の原因になります。

(4) 作業前点検について

作業を開始する前には、各部の点検及び給油・注油をしてください。

特に各ワイヤーの作動及び、各軸受部への注油は忘れないでください。怠ると傷害事故の原因となり危険です。

■ エンジン始動時は

(1) 室内では十分に換気を

室内でエンジンを運転する時は、窓や戸を開け十分に換気してください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

(2) エンジンの始動は、周囲を確認してから

エンジンを始動する時は、周囲の安全を十分確認してください。また、クラッチレバーを必ず『切』にしてください。守らなかった場合は、傷害事故の原因となり危険です。

■ 作業中は

(1) 作業中は、まわりの人に注意（特に子供）

作業は必ず平坦なところで行い、作業員以外の人を機械に近づけないでください。機械自体や作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こす恐れがあり危険です。

(2) 作業開始時は、声かけあって

作業を開始する時は、周囲の安全を十分確認してください。特に補助者と共に作業する時は、声をかけ合って安全を確認してください。怠ると傷害事故の原因となり危険です。

(3) アユミ板を使ってほ場の出入り

畦の高さが高いほ場では、出入りの際に必ずアユミ板を使用してください。使用しなかった場合は衝撃で機械を損傷したり、横転事故の恐れがあり危険です。

(4) 揺動部・回転部には手を触れない

作業中は、揺動部や回転部には絶対に手や足を近づけないでください。守らなかった場合は、傷害事故の原因となり危険です。

(5) 機械から離れる時は

機械から離れる時は、必ずエンジンを切ってください。怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあり危険です。

(6) 移動する際は

機械を移動させる際は必ずエンジンを停止して行ってください。怠ると回転部に巻き込まれるなど、事故を引き起こす恐れがあり危険です。

■ 点検・整備時は

(1) 点検・整備は、適正な工具で

点検・整備をする時は、機械を平坦な広い場所に置き、適正な工具を正しく使用してください。間に合わせの工具を使用すると整備中の事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(2) 点検・整備はエンジンを止めて

点検・整備をする時は、機械を平坦な広い場所に置き、必ずエンジンを停止してから点検・整備をしてください。これを怠るとケガをしたり、回転部などに手や衣服が巻き込まれて大変危険です。

(3) 過熱部は冷めてから

エンジンを切つてすぐには、点検・整備をしないでください。エンジン・排気管等の過熱部が完全に冷えてから点検・整備をしてください。怠ると火傷などの原因になり危険です。

(4) 改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取付け改造は絶対にしないでください。故障の原因になるばかりでなく、思わぬ事故の原因になり大変危険です。

(5) 清掃は機械を止めてから

作業中に清掃する場合は、必ず機械を止めてから清掃してください。怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあり危険です。

■ 格納・保管時は

(1) カバーは機械が冷えてから

作業終了後、シートカバー類を機械に掛ける時は過熱部分が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにシートカバー類を掛けると、火災の原因となり大変危険です。

(2) 燃料の抜き取り

長期格納する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取ってください。燃料が変質しエンジンの故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

(3) 格納・保管は、平らな広い所に

格納・保管場所は、平らで広く直射日光の当たらない場所にしてください。暗く狭い所に保管していると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

■ 移動・運搬時の注意

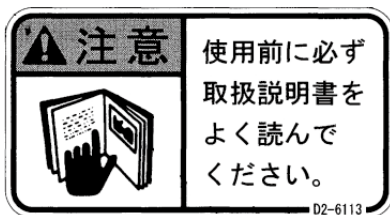
(1) 運搬するとき

軽トラック等で運搬する時は、エンジンを停止し、必ずロープ等で荷台にしっかりと固定してください。運搬中は不必要な急発進・急ブレーキ・急ハンドルはしないでください。怠ると機械が損傷したり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

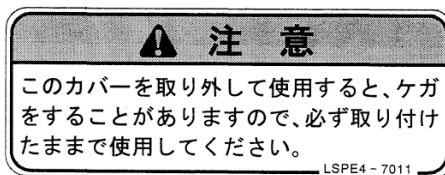
安全表示ラベルについて

- 本機には、安全に作業をしていただくために、安全表示ラベルを貼付しております。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- 安全表示ラベルが破損・紛失した場合は、新しいラベルに貼り替えてください。
- 汚れた場合は、きれいに拭き取り、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買い上げいただいた販売店等へ注文してください。

安全表示ラベル貼付位置



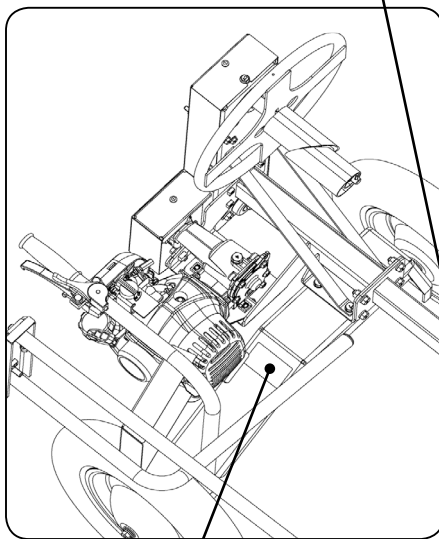
取説注意マーク
【D2-6113】



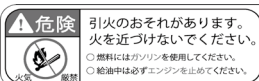
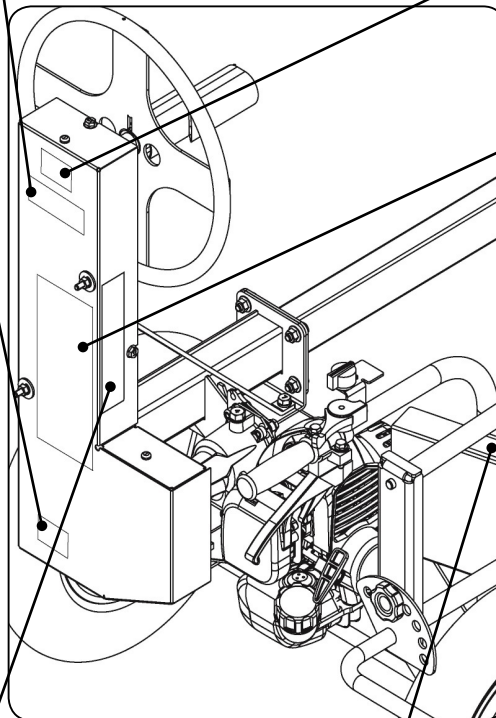
カバー警告マーク
【LSPE4-7011】



作動部警告マーク
【LSPE4-7009】



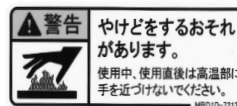
マフラー警告マーク
【X4-8123】



火気厳禁警告マーク
【W70-7115】

エンジン始動時、クラッチレバーは「切」

W70-7115



やけど警告マーク
【MBD1D-7213】

作業手順と注意事項

- エンジン停止状態でクラッチレバーを「切」にします。
- ロールを手で押えて、ハンドルを逆転（回転方向ラベルに表示）し、ロール外径を縮めます。
- ハンドルを壁に当るまで左に回します。
- 筒を固定します。
 - 筒の先を、ロールに差し込みます。
 - ロール受の先端を筒の端面で合わせ取付ボルトを締付けます。
 - 筒をロール受に差し込み、ハンドルを止まるまで回します。
 - 筒を手で押えてハンドルを回転方向ラベルの表示方向に回し、筒を固定します。
- ビニールシートを筒に固定し、エンジンを始動します。
- クラッチレバーを「入」にします。
- エンジン回転を上げると、ビニールシートを巻き始めます。

(注意) ●巻取り作業は、シートの中心を中央のローラーに合わせます。
●シート張り作業は、シートをセット後、クラッチレバーを「切」にして行ないます。
●筒交換を行なう際は、必ずエンジンを止めて行ってください。
怠るとケガをする恐れがあり、大変危険です。

W70-7103 (1)

操作説明マーク
【W70-7103 (1)】

重要

エンジンの安全な取扱いについては、必ず付属のエンジン取扱説明書をよく読んでご確認の上、その注意に従ってください。

保証とサービスについて

■ 商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

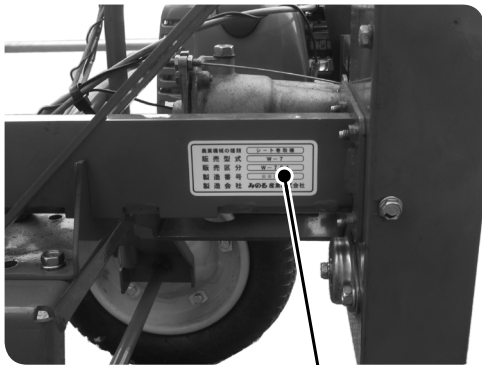
■ サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店へお気軽にご相談ください。

その際、

- (1) 販売型式および区分
- (2) 製造番号

を併せてご連絡ください。



型式マーク

(型式マーク)

| | |
|---------|-----------|
| 農業機械の種類 | シート巻取機 |
| 販売型式 | W-7 |
| 販売区分 | W-7 2 |
| 製造番号 | ※※※※※ |
| 製造会社 | みのる産業株式会社 |

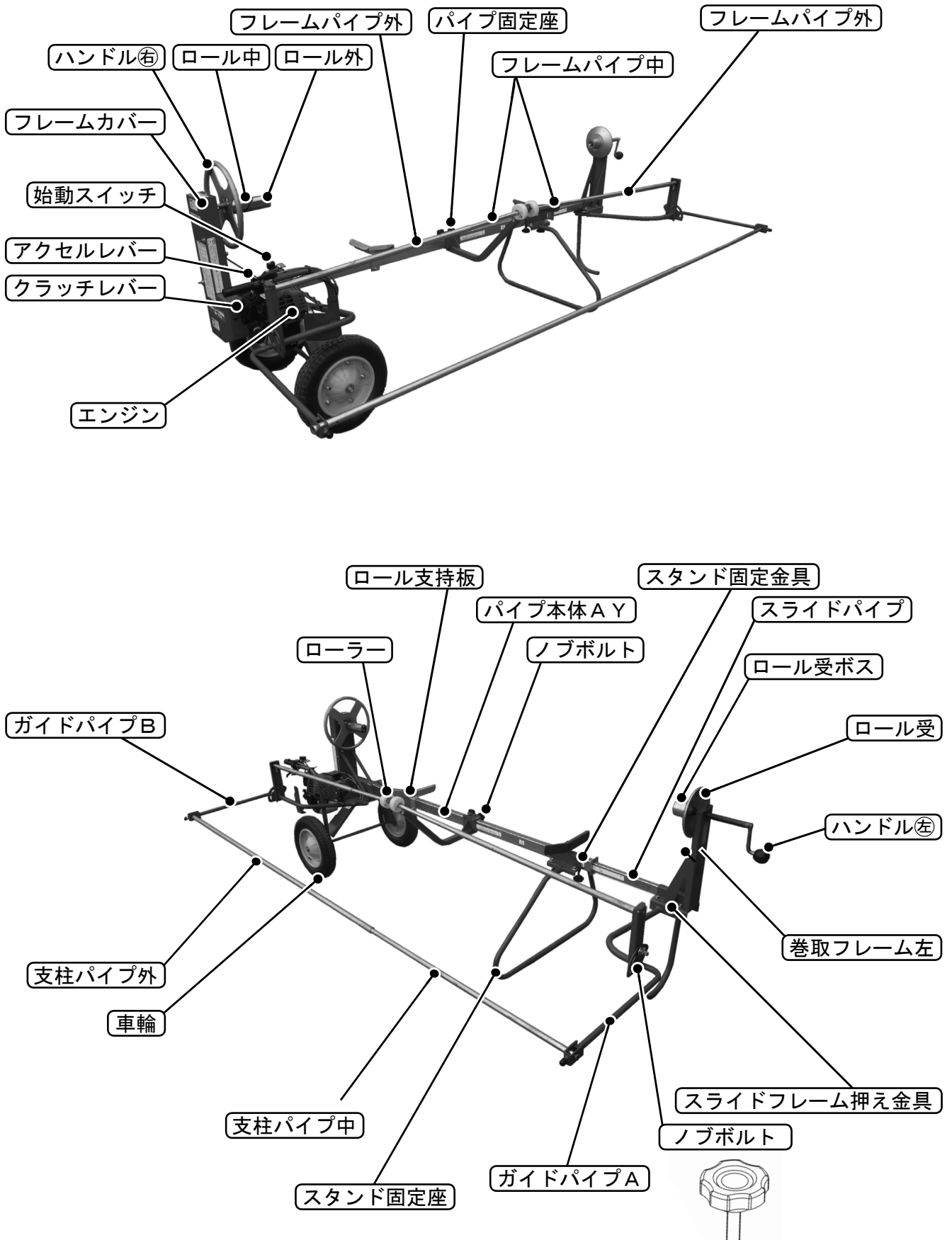
■ 補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は、製造打切り後 9 年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

各部の名称と働き

各部の名称



付属品は 21 ページ「主要諸元」に記載されています。

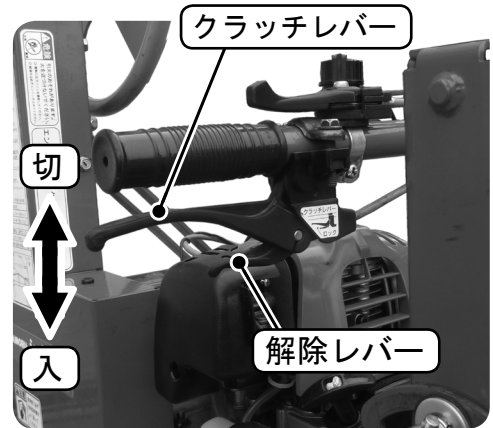
各部の働き

◆クラッチレバー

クラッチレバーを握れば、ハンドルⒺ（ロール）がフリーとなります。

* クラッチレバーを握った状態では、エンジン始動時にハンドルⒺ（ロール）は回転しません。

クラッチレバーを離せば、ハンドルⒺ（ロール）が回転します。



重要

クラッチレバーをいっぱいまで握ると自動的に「切」でロックされます。解除レバーを握ればロックは解除されます。

警告

エンジン始動時には、必ずクラッチレバーを「切」でロックしてください。守らない場合、急にハンドルⒺ（ロール）が回転して傷害事故の原因となり大変危険です。

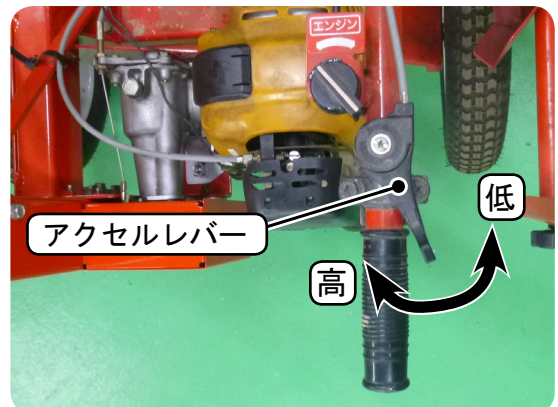
◆アクセルレバー

低・・・「ハンドルⒺ（ロール）」の回転が止まります。

高・・・「ハンドルⒺ（ロール）」の回転が速くなります。

注意

この機械は遠心クラッチ式を使用しています。ハンドルⒺ（ロール）を停止させる時はアクセルレバーを「低」にしてください。クラッチレバー等での操作は、傷害事故を引き起こす恐れがあり危険です。



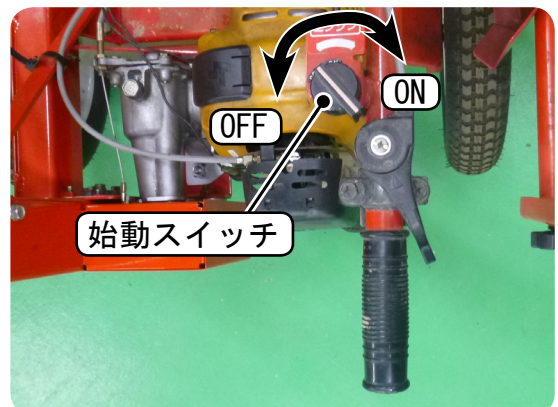
◆始動スイッチ

「ON」・・・エンジン始動が可能です。

「OFF」・・・エンジンが停止します。

注意

エンジン停止の際は、確実に「OFF」の位置にしてください。機械から離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。



作業前点検・運搬のしかた

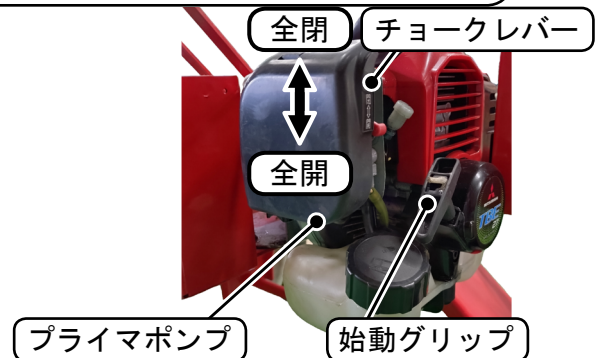
エンジンの始動と停止

重要

同梱されている付属のエンジン取扱説明書を十分お読みいただき、よく理解してから安全に作業してください。

■ エンジンを始動する前に

- 周囲の安全を確かめてから作業に入ってください。
始動の時、再度周囲の安全を確認してください。
- エンジン等に異常があった時は直ちに始動スイッチを「OFF」にし、エンジンを停止させて点検してください。
- 燃料は、潤滑油混合ガソリンを使用します。
燃料が古いとエンジントラブルの原因となりますので、新しい燃料を使用してください。



警告

給油・注油する時は、次のことを守ってください。

- (1) 本機を平坦な広い場所に置く。
- (2) エンジンを停止する。
- (3) エンジンなどの過熱部分を十分に冷やす。
- (4) くわえタバコなど火気厳禁。

以上の安全を確認してください。

安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

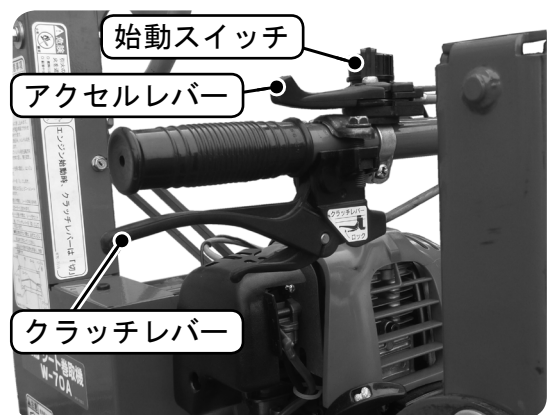
重要

本機は2サイクルエンジンを搭載しています。燃料は自動車用レギュラーガソリンに2サイクル専用オイルを混合した混合油を使用します。

混合比＝ガソリン：2サイクル専用オイル
(JASO FC級またはISO-L-EGC級)
(容積比) 50：1

■ 始動のしかた

- ① クラッチレバーが「切」状態になっている事を確認してください。(クラッチレバー 6 ページ参照)
- ② 「始動スイッチ」を「ON」の位置にします。
- ③ プライマポンプを3～4回押してください。
- ④ チョークレバーを全閉位置にします。
エンジンが温まっている時は、全開位置にします。
- ⑤ アクセルレバーを「低」の位置にします。
- ⑥ 本機を保持し始動グリップを、勢い良く引っ張ります。
- ⑦ 始動後エンジンの調子を見ながら徐々にチョークレバーを全開位置にしてください。



■ 停止のしかた

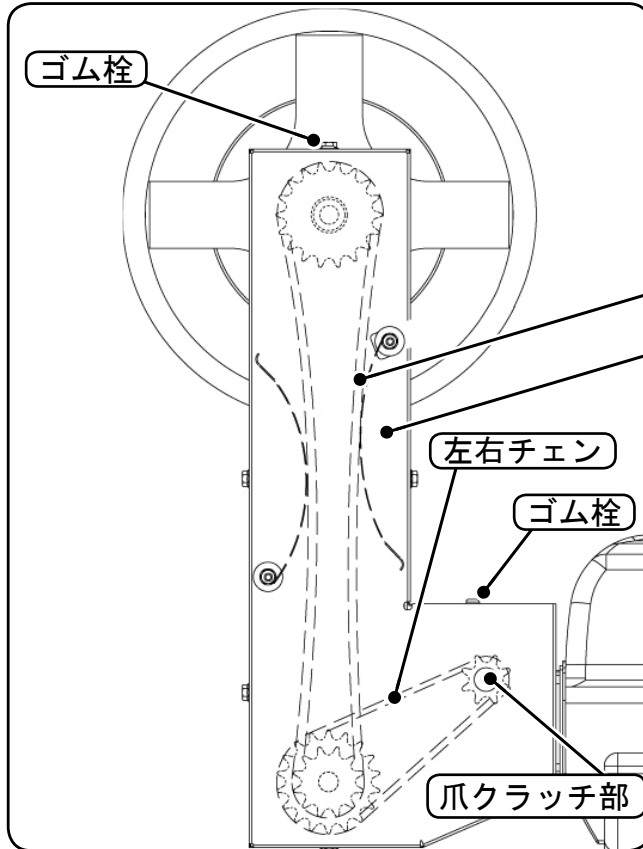
通常時の停止のしかた

- ① アクセルレバーを「低」の位置にします。
- ② 「始動スイッチ」を「OFF」にして停止させてください。

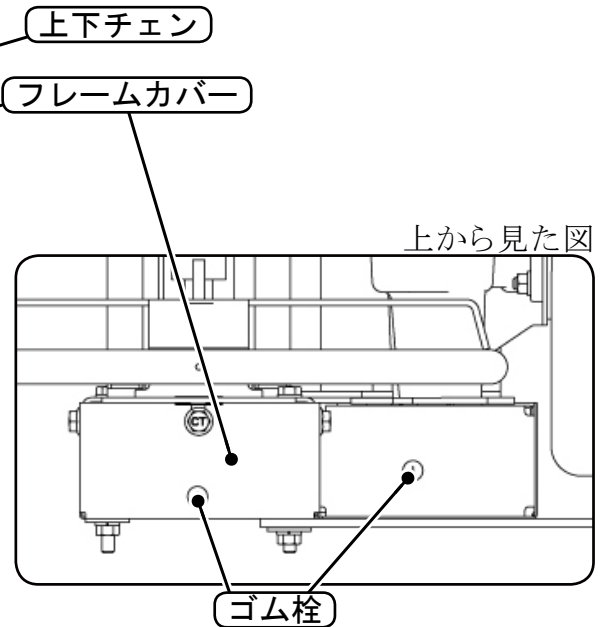
緊急時の停止のしかた

「始動スイッチ」を「OFF」にして停止させてください。

注油箇所



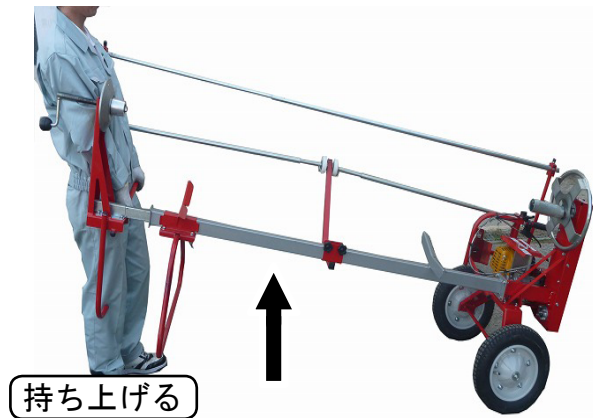
チェン駆動部等には毎日注油してください。
ゴム栓を外し、そこからチェン駆動部へ注油してください。



移動のしかた

●移動状態

エンジンを停止させ、右図のように持ち上げて手押しで移動させてください。



作業のしかた

安全には十分注意して、次の要領で作業を進めてください。

⚠ 注意

- 作業中、急に機械が停止したり、異常音に気づいた時は、必ずエンジンを停止してください。その後原因を調べ、正常な状態に戻した後に作業を再開してください。
- 作業中は、回転部分（特にハンドル[㊟]）には手や顔等を近づけないでください。守らなかった場合は、傷害事故の原因となり危険です。
- 作業中は、作業員以外の人を機械に近づけないでください。特に小さなお子様には十分注意してください。

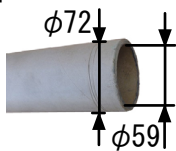
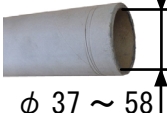
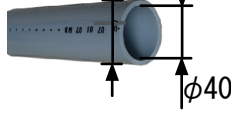
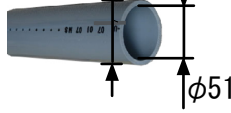
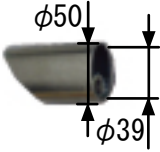
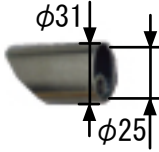
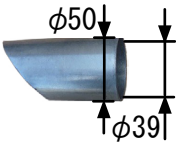
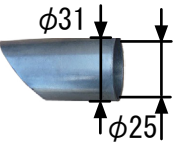
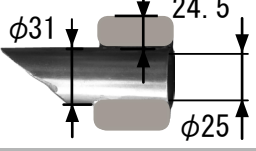
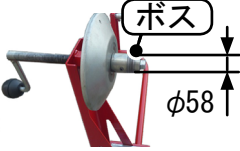
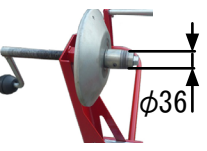
作業前準備

⚠ 注意 ロール・ロール受を交換する時は、必ずエンジンを停止してください。

■ ロール（外・中）・ロール受について

取付ける紙管径に合わせてロール・ロール受を交換します。

巻取時に塩ビパイプを使用する場合は、オプション部品（22 ページ参照）が必要となります。

| | | | | |
|--------|--|---|--|---|
| 巻取りパイプ | 紙管  φ72 φ59 | 紙管  φ 37 ~ 58 | 塩ビパイプ  φ48 φ40 VP 40 | 塩ビパイプ  φ60 φ51 VP 50 |
| ロール外 |  φ50 φ39 ロール外 (W70-3201) |  φ31 φ25 ロール外36CP (W70-9101) | | |
| ロール中 |  φ50 φ39 ロール中 (W70-3202) |  φ31 φ25 ロール中36(W70-9102) |  φ31 24.5 φ25 ロール中36CP (VP用)(W70-9301(2)) | |
| ロール受ボス |  ボス φ58 ロール受ボス50 (W70-3305(1)) |  φ36 ロール受ボス36(W70-9103) | | |

注1) ■ は、オプション部品となります。

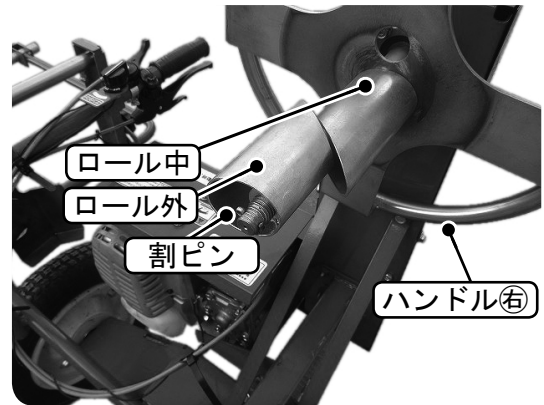
重要

- 出荷時には、ロール外とロール中が装着されています。
- ロール受ボス36・50は、ロール受に取付けて使用します。出荷時には、ロール受ボス50が装着されています。
- 塩ビパイプを使用する場合は、塩ビパイプ端部を加工してください。（22 ページ参照）

作業のしかた

■ ロール（外・中）の取り替えかた

- ① ハンドル⑥の先端部の割ピンを外します。
- ② ロール外・中を外し、交換します。
- ③ 割ピン（ロール外抜け止め）を両側へしっかり割って取付けます。



⚠ 警告

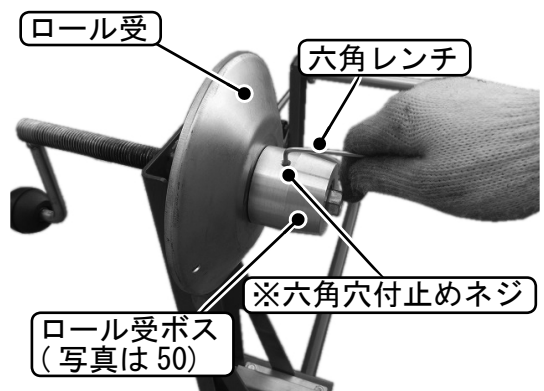
ロール（外・中）の取り替えをする時は、必ずエンジンを停止してください。
これを守らないと、思わぬ損傷事故を起こす恐れがあり大変危険です。

重要

- 塩ビパイプを使用しての作業には、ロール中 36CP（VP用）オプション部品が必要となります。
ロール外は、本機付属のロール外 36CPを使用します。（9ページ参照）
- 割ピンは、両側へしっかりと割ってください。
これを怠ると割ピンにロール外があたり、シートがうまく巻き取れないようになります。
- 傷んだ割ピンは交換してください。

■ ロール受ボスの取り替えかた

- ① ロール受ボス中央部の穴に六角レンチ（付属品）を差込み、六角穴付止めネジ（※）をゆるめます。
- ② ロール受ボスを外し、交換します。
- ③ 六角穴付止めネジを締めてロール受ボスを固定します。



※ 六角穴付止めネジは

| | | |
|-----------|----|-----|
| ロール受ボス 50 | …… | 2ヶ所 |
| ロール受ボス 36 | …… | 1ヶ所 |

あります。

⚠ 警告

ロール受ボスの取り替えをする時は、必ずエンジンを停止してください。
これを守らないと、思わぬ損傷事故を起こす恐れがあり大変危険です。

重要

- 本機出荷時には、ロール受ボス 50 が本機に装着されています。
- 六角穴付止めネジは、確実に締付けてください。
締付けが十分でない場合、ロールがすべり、シートがうまく巻き取れないようになります。

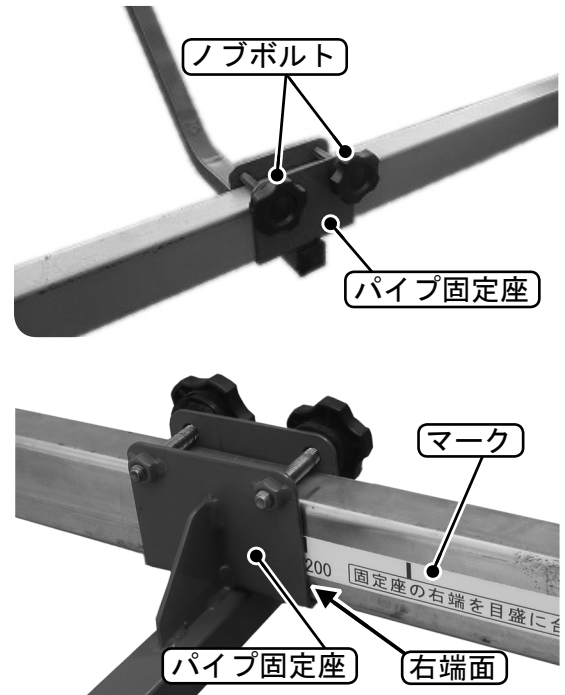
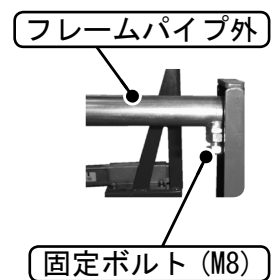
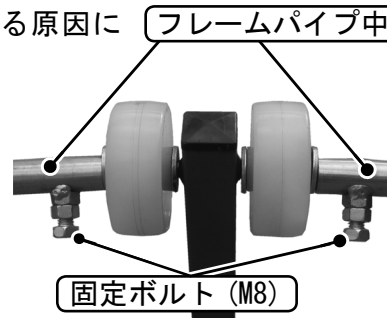
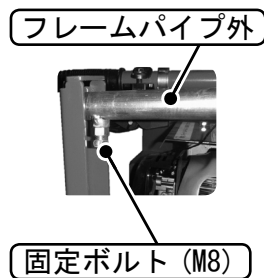
■ パイプ固定座の調節のしかた

- ① シート幅に合わせて、パイプ固定座の位置を変更するため、ノブボルトを緩めます。
- ② パイプ固定座の右端面を、使用するパイプ長さにマークの目盛を合わせノブボルト（2ヶ）を締付けます。
- ③ フレームパイプ外、フレームパイプ中の固定ボルト（M8）の締付けを確認します。

重要

- ノブボルト（2ヶ）は確実に締付けてください。
- パイプ固定座の位置を変更させる場合は、フレームパイプ外の固定ボルト（M8）をゆるめるまたは、ノブボルト（2ヶ）を外すと楽に調節ができます。
- 調節後はフレームパイプ外、中の固定ボルト（M8）の締付けを必ず確認してください。

その際、必ずボルトの頭を下に向けるようにしてください。これを怠るとシートが破れる原因になります。



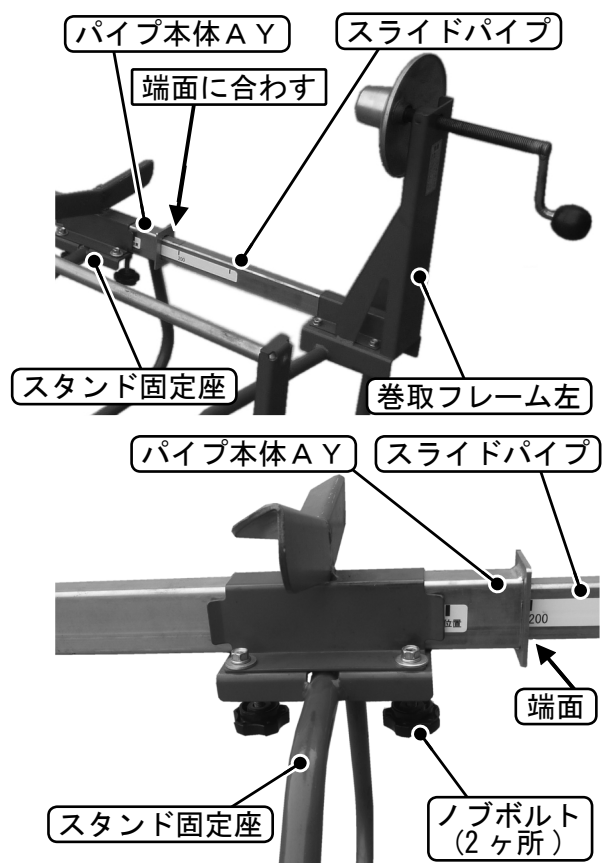
■ 巻取フレーム左の調節のしかた

シート幅に合わせて、巻取フレーム左の位置を変更します。

- ① スライドパイプのマークの目盛りと、使用するパイプの長さ合わせた後、パイプ本体AYの端面に合わせて、スタンド固定座のノブボルト（2ヶ所）を締付けます。
- ② フレームパイプ外の固定ボルト（M8）の締付けを確認します。（上図参照）

重要

- 巻取フレームの位置を変更させる場合は、フレームパイプ外の固定ボルト（M8）をゆるめると楽に調節ができます。
- 調節後はフレームパイプ外、中の固定ボルト（M8）の締付けを必ず確認してください。その際、必ずボルトの頭を下に向けるようにしてください。これを怠るとシートが破れる原因になります。



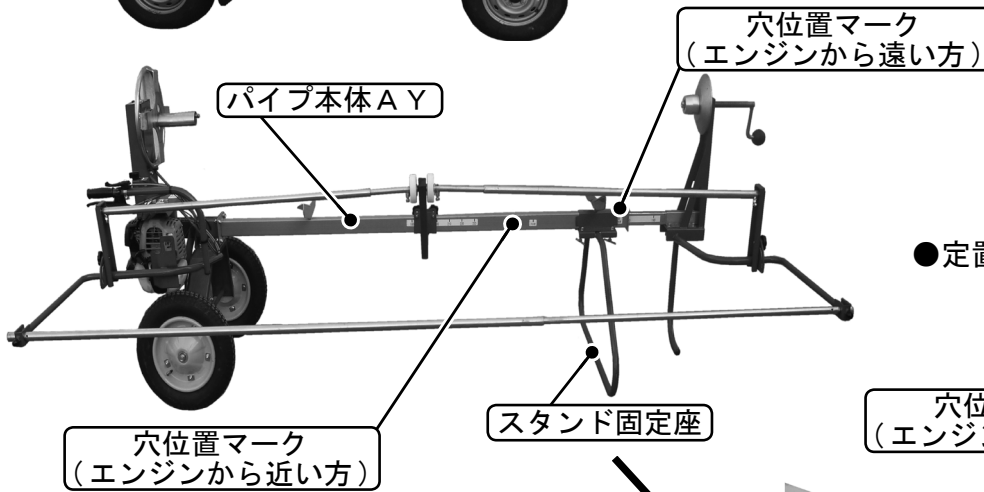
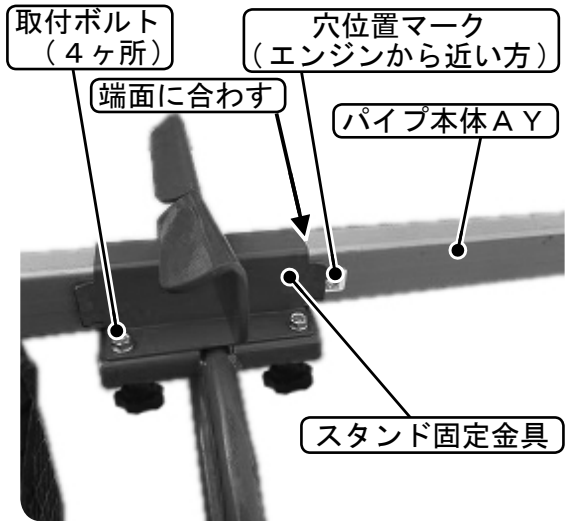
■ スタンド固定座の調節のしかた

- ① 軽トラック・定置での作業に合わせて、スタンド固定座の位置を変更します。
- ② スタンド固定金具の取付ボルト（4ヶ所）で伸縮するスライドパイプ（巻取フレーム左）を固定します。

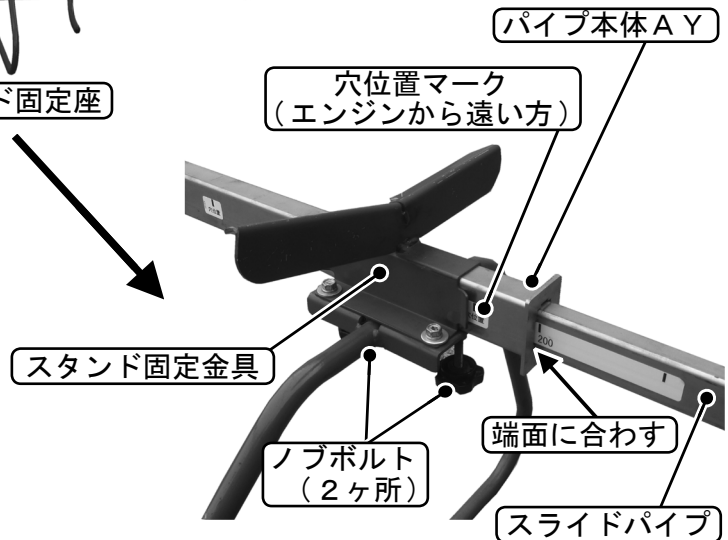
軽トラックで使用する時は、エンジンから近い方の穴位置マーク、定置で使用する時は、エンジンから遠い方の穴位置マークに端面を合せて固定してください。

（パイプ本体〔下側〕には穴があいていますのでノブボルトで締め付けてください。）

● 軽トラックでの使用



● 定置での使用



⚠ 注意

- スタンド固定座の取付位置が軽トラックと定置使用では違いますので注意してください。スタンド固定座を間違った取付位置に固定すると、本機の安定性が損なわれ、使用時に転倒する恐れがあります。
- ノブボルト（2ヶ所）は確実に締め付けてください。

■ 本機の固定・運搬のしかた

1. 軽トラック搭載時

右図のように軽トラック上に固定します。
作業中に移動したりしないようにロープ等で
荷台にしっかりと固定してください。

⚠ 警告

軽トラック上で作業を行う時は、必ず本機をしっかりと固定してください。これを守らないと、思わぬ損傷事故を起こす恐れがあり大変危険です。
また、軽トラック等での運搬時についてもしっかりと固定し、道路交通法を遵守して運搬してください。

2. 運搬するとき

軽トラック等で運搬する時は、エンジンを
停止し、走行に支障のないように縮めて、
必ずロープ等で荷台にしっかりと固定して
ください。

運搬中は、不必要な急発進・急ブレーキ・
急ハンドルはしないでください。

怠ると機械が損傷したり、思わぬ事故を
引き起こす恐れがあります。

3. アユミ板を使ったの積み降ろし

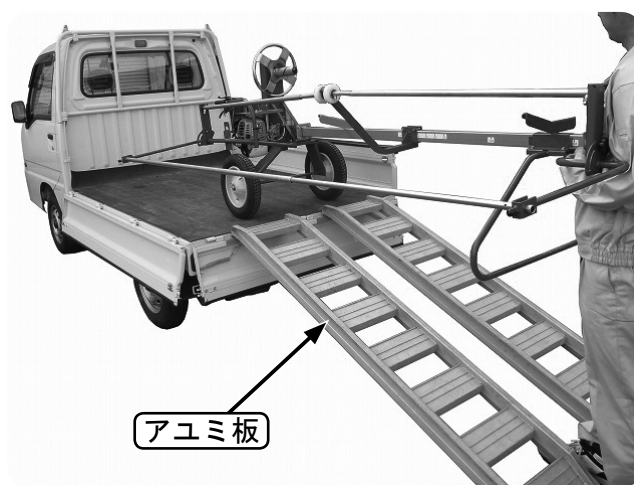
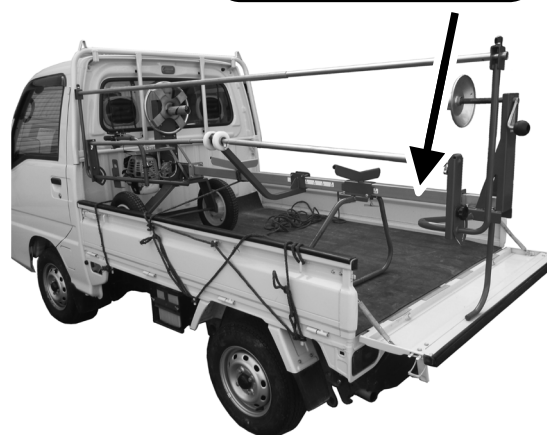
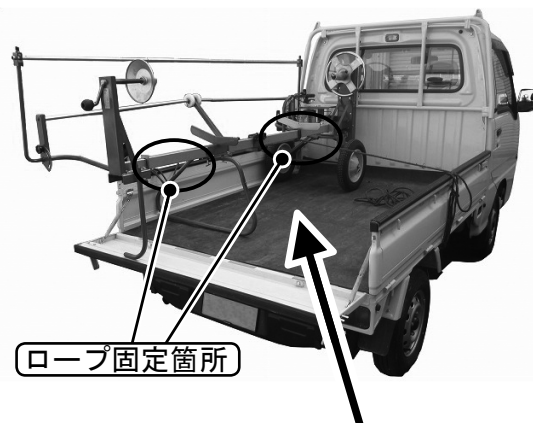
軽トラック等への積み降ろし作業は
必ずアユミ板を使用してください。
怠ると荷台からの落下等で思わぬ
事故を引き起こす恐れがあります。

4. 定置作業時

作業中に移動したりしないようにスタンド固定座を
杭等でしっかりと固定してください。

⚠ 警告

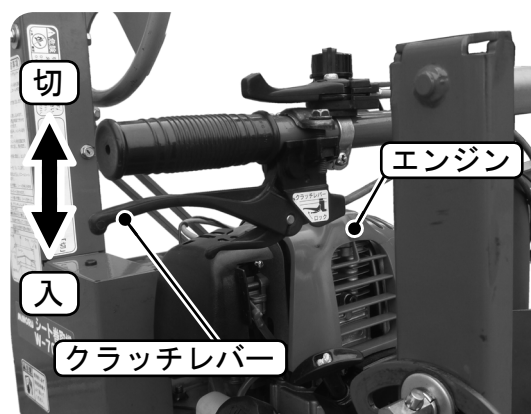
定置で作業時は、必ず本機をしっかりと固定して
ください。これを守らないと、思わぬ損傷事故を
起こす恐れがあり、大変危険です。



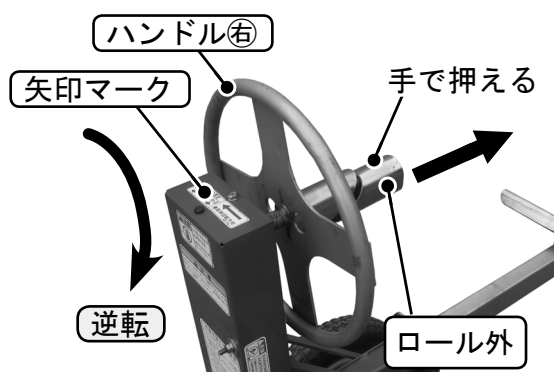
作業の手順

■シート巻き作業

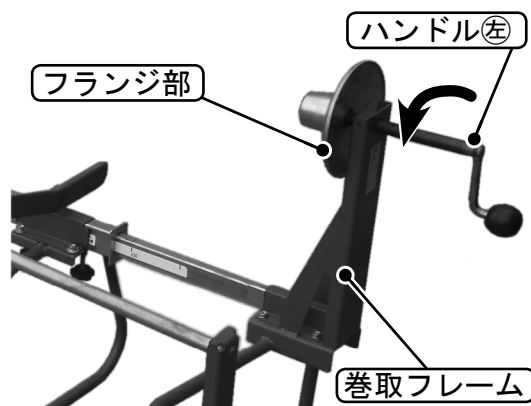
- ① エンジン停止の状態ですらッチレバーを「切」にし、ロックします。



- ② ロール外を手で押えて、ハンドル⑤を逆転（矢印マークの逆方向）し、ロール外を矢印の方向へ移動させます。

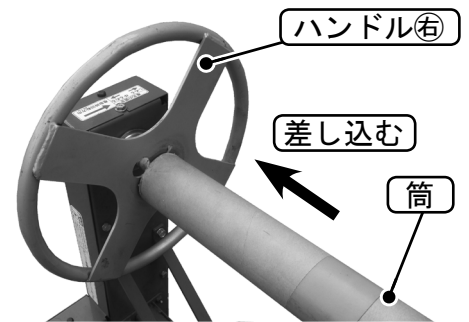


- ③ ハンドル⑥のフランジ部が巻取フレームに当たって止まるまで矢印の方向に回します。



④ 筒を固定します。

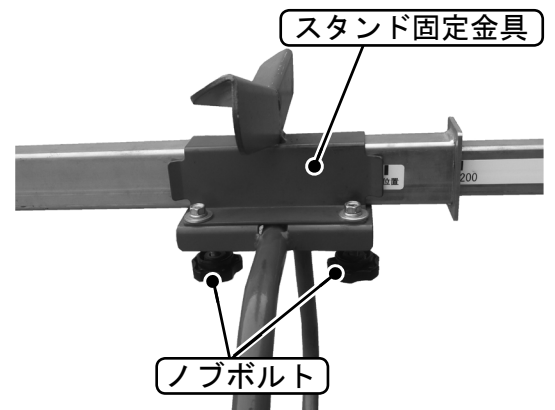
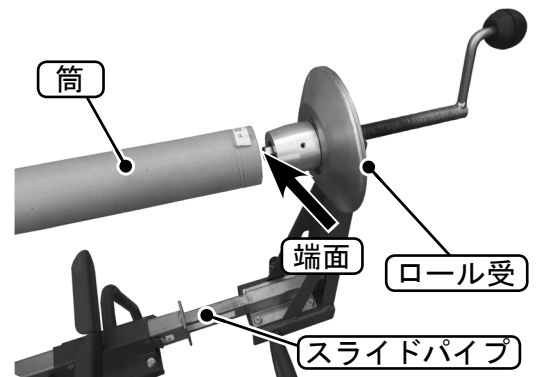
- (1) 筒の先をハンドル⑤のロールに差し込みます。



- (2) ロール受の先端が筒の端面にくるようにスライドパイプを調節し、ノブボルトを締付けます。

重要

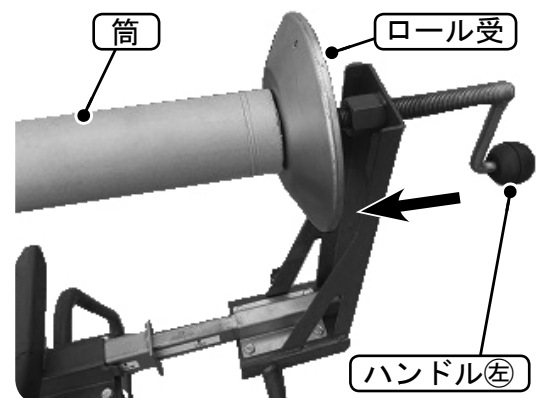
- ロール受位置の調整が必要な場合は、巻取フレーム左の調節のしかたを参考にしてください。(P11 参照)



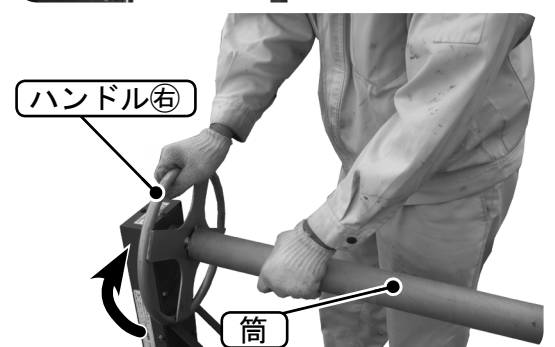
- (3) ロール受が筒の先端に当たるまでハンドル⑤を回します。

重要

- ロール受が筒の先端に当たってから、それ以上はハンドル⑤を回さないでください。筒が破損する恐れがあります。



- (4) 筒を手で押えて、ハンドル⑤を矢印の方向に軽い力で回転できなくなるまで回し、筒を固定します。



作業のしかた

- ⑤ 右図のようにシートを通し、筒に固定してエンジンを開始します。

警告

クラッチレバーを「切」にしてエンジンを始動してください。
ロール部（ハンドルⒺ）が急に回転し、思わぬ傷害事故を起こす恐れがあり大変危険です。

重要

- シートを筒に2, 3巻きしてから巻き始めます。
- 巻き始めにスリップする場合は、筒とシートをガムテープ等で固定してください。
- 支柱パイプ外・中は、巻取り時にシートに軽く接触する程度の位置にくるようガイドパイプの位置を調整してください。

- ⑥ クラッチレバーを「入」にします。

- ⑦ アクセルレバーを「高」にすると、シートを巻き始めます。
作業の状況に応じて、「アクセルレバー」で速度を調節してください。

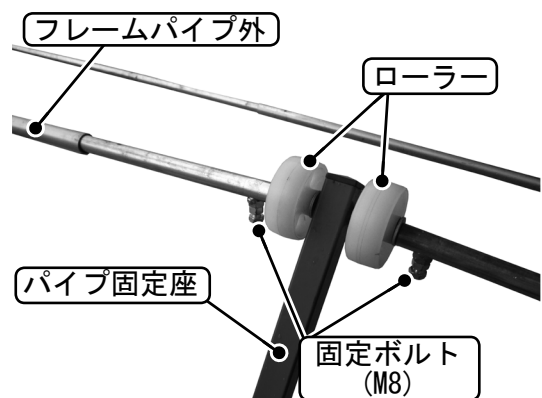
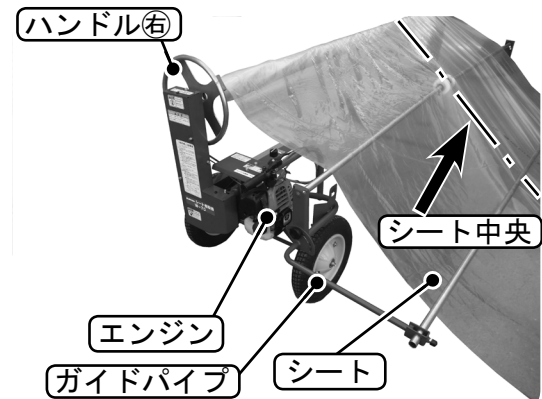
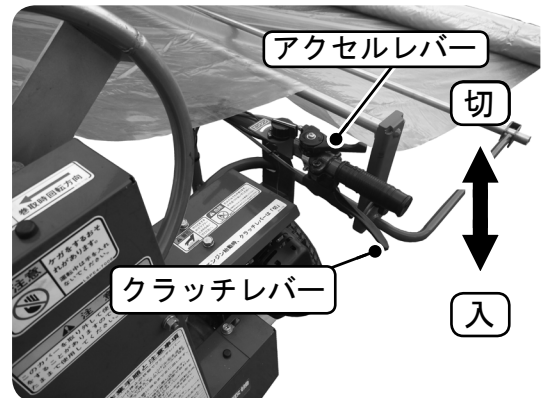
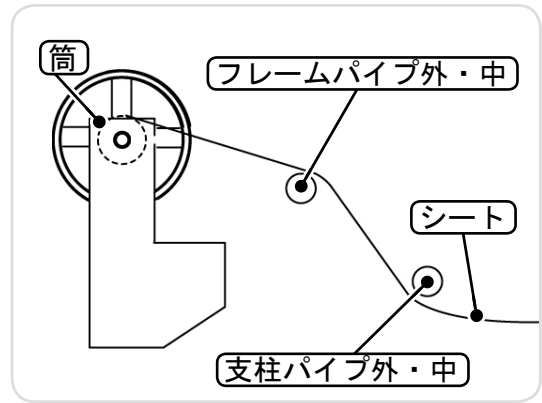
警告

巻取作業中は、ハンドルⒺに手を巻込まれないよう十分注意してください。
傷害事故を起こす恐れがあり大変危険です。

- ⑧ シート巻取り作業は、パイプ固定座先端のローラー（2ヶ所）とシート中央を合わせてください。

重要

- シート幅に合わせて、パイプ固定座の位置を調節してください。
- パイプ固定座のノブボルト（2ヶ所）は、確実に締付けてください。（11 ページ参照）
- パイプ固定座の位置変更時は、
 - ① フレームパイプ外の固定ボルト（M8）を緩める。
 - ② ノブボルト（2ヶ）を外す。のどちらかで楽に調節ができます。
- 調節後は固定ボルト（M8）又はノブボルト（2ヶ）を確実に締付けてください。
- 巻取りシート径はφ 400mm 以下でご使用ください。



⑨ 巻取りが終了したら、エンジンを停止します。

⚠ 警告

筒の交換作業は、必ずエンジンを停止してから行ってください。これを守らないと、思わぬ傷害事故を起こす恐れがあり大変危険です。

⑩ 取外し作業は、取付け作業の逆の手順で行います。

■シート張り作業

① シート張り作業は、シート巻き作業 (P14 ~ 16)

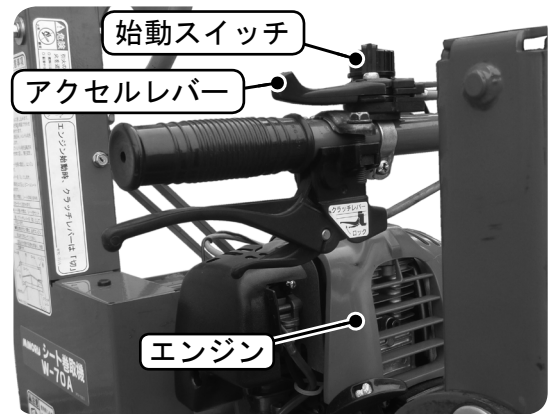
①~⑤の手順を参照してシートを通します。

ただし、エンジンは始動させません。

② シートの端を持ちシートを伸ばし、シート張りを行います。

⚠ 注意

シート張り作業は、エンジン停止の状態ですらクラッチレバーを「切」にして、シートをセットします。エンジンを始動しての作業は、行わないでください。



長期格納時の手入れ

⚠ 注意 点検する時は、必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えたのを確認してから行ってください。

- 各部の点検を行い、必要に応じて調整してください。
- 長時間使用しないときは、点検整備を行ってください。
- 機械を長期にわたり保管する場合には、機械が十分冷えてから市販のオイル抜きなどで燃料を抜き取ってください。
- 長時間使用しないときは点火プラグを外し、その中へエンジンオイルを数滴垂らし始動グリップを軽く引きエンジン内に十分オイルを塗布してから点火プラグを締めてください。
- 外部の汚れを良く拭き取り、湿気のない場所で動き出したり転倒しない状態で、安全に保管してください。

重要

機械を長期にわたり保管する場合は、クラッチレバーを「入」にして保管してください。怠った場合、クラッチワイヤーが伸びてクラッチが正常に切れなくなる恐れがあります。

点検整備

定期的な点検整備

⚠ 危険

点検整備をする時は、次のことを守ってください。

- (1) 平坦な広い場所に置く。
- (2) エンジンを停止する。
- (3) エンジンなどの過熱部分を十分冷やす。
- (4) くわえタバコなどの火気厳禁。
- (5) 安全靴・手袋等適正な防護服を着用する。
- (6) 適正な工具や器具を使用する。
- (7) カバーや蓋はきちんと元通りに取付ける。

安全を確認しないで点検整備をすると傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■ 点検整備一覧表

○点検 △清掃 ×調整・交換

| 点検・調整・給油項目 | | 点検時期 | | | 備考 |
|------------|---------------|------|------|------|--------------------------------|
| | | 毎日 | 10時間 | 50時間 | |
| エンジン部 | 燃料漏れ | ○ | | | |
| | エアクリーナ | | △ | | |
| | 燃料フィルター・燃料パイプ | | | ○ | フィルターのつまり確認 燃料パイプの劣化、ひび割れ確認 |
| | 点火プラグ | | | △ | |
| 駆動部 | 指定注油箇所 | ○ | | | |
| | 減速ミッションオイル | | ○ | × | ギヤオイル#90 0.18ℓ |
| | クラッチワイヤー | | ○ | | |
| | アクセルワイヤー | | ○ | | |
| | チェーン | | ○ | | |

オイル交換などで出た廃油を投棄・焼却する等、みだりに処分しますと水質汚濁、土壌汚染、大気汚染につながりますので、販売店またはガソリンスタンドにご相談ください。

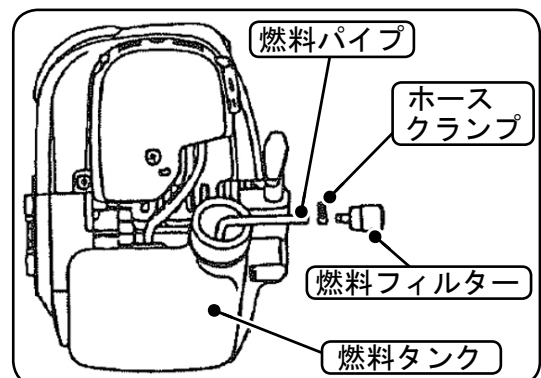
■ 燃料フィルター・燃料パイプの点検

燃料タンク内の燃料フィルターを燃料パイプから引き抜き、洗浄します。同時に燃料パイプも点検します。なお、燃料フィルターの汚れがひどいもの、燃料パイプがひび割れているものは交換してください。

点検時期 …………… 毎月ごと、または50時間運転ごと

⚠ 注意

燃料フィルターはエンジンを停止し、十分冷えてから点検してください。これを怠ると火傷する恐れがあります。



■ 点火プラグ・エアクリーナの清掃

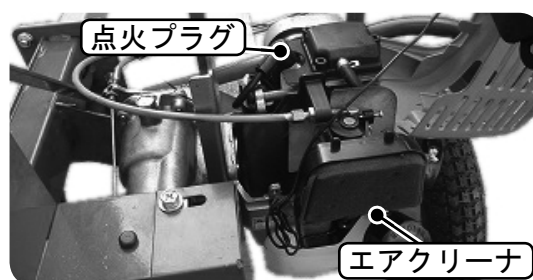
点火プラグおよびエアクリーナは、定期的に清掃してください。

汚れると、エンジントラブルの原因となります。

※ 点火プラグおよびエアクリーナの清掃はエンジン取扱説明書をお読みください。

《使用プラグ》

NGK B P M R 8 Y 相当品



⚠ 注意

点火プラグ・エアクリーナの清掃を行う時は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから清掃してください。

■ 減速ミッションオイルの点検

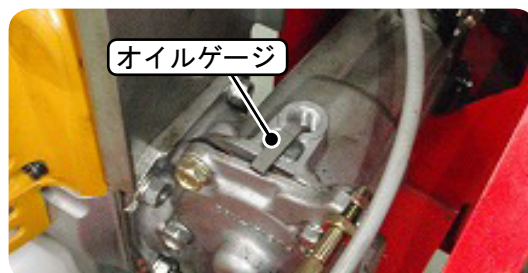
機体を水平にして減速ミッションの給油口からオイルゲージでオイルを確認してください。

不足している場合は、給油口より補給してください。

⚠ 注意

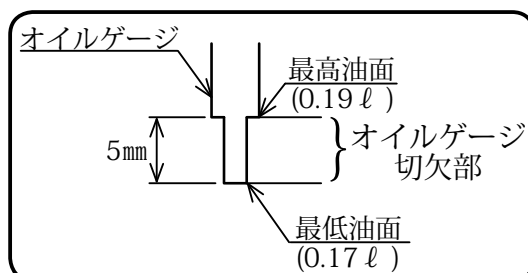
オイル点検・補給時はエンジンを停止し、十分冷えてから作業してください。これを怠ると火傷する恐れがあります。

- ① 給油口のボルトを外し、オイルゲージを右図のように差込み、点検します。
- ② オイルゲージで確認しながら、オイルを補給します。
- ③ 給油口のボルトを取付けます。



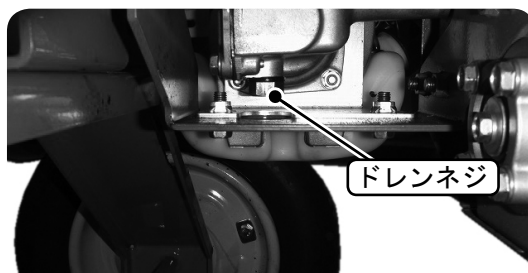
重要

- 給油口の入口は狭く、オイルジョッキを使用するとあふれます。オイル補給時には、市販の油さしを利用してください。



【交換のしかた】

- ① 給油口のボルトを外します。
- ② ドレンネジを外してオイルを抜いてください。
- ③ ドレンネジを締付後、給油口から適量を給油してください。
- ④ 給油後は、オイルゲージでオイル量を確認してください。
- ⑤ 給油口のボルトを取付けます。



点検整備

■チェーンの点検

10時間ごとに、チェーンの点検をしてください。

① カバーを外します。

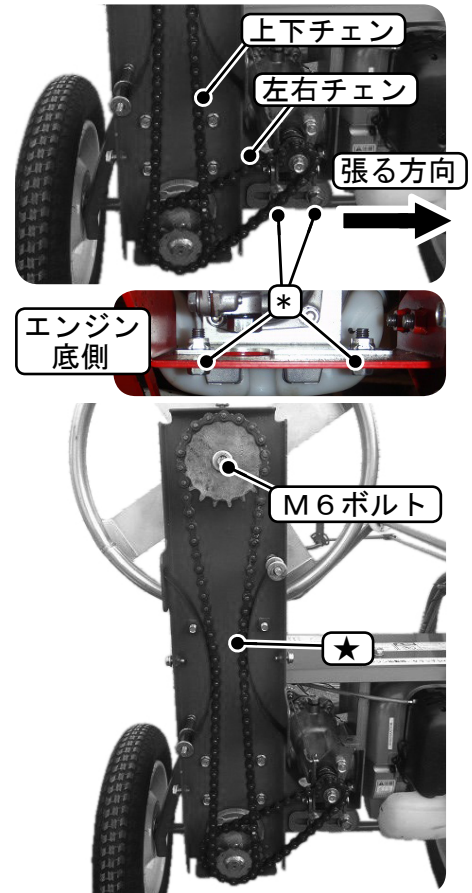
【左右チェーン】

② チェーンがたるむ場合は、エンジンを固定しているボルト(*印部4ヶ所)をゆるめ、矢印の方向へチェーンを張ってください。

【上下チェーン】

③ チェーンが接触している(★印部)場合は、チェーンを交換してください。

④ チェーンを交換するときは、M6ボルトを外して交換してください。



⚠ 注意

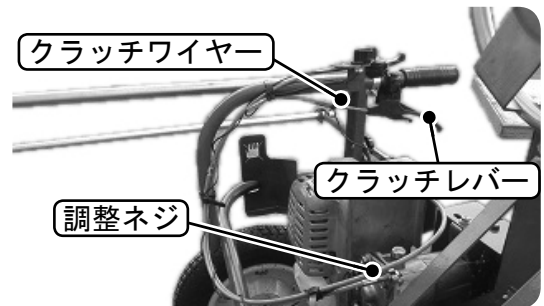
チェーンの調整をする時は、必ずエンジンを停止してください。
これを怠ると手等が巻き込まれる恐れがあります。

■クラッチワイヤーの点検

クラッチレバーを「切」にした時、ハンドル㊦が手で軽く回せるか、抵抗感がないか確認します。

重要

- ワイヤーを張り過ぎると、クラッチレバーの操作荷重が重くなりますので、注意してください。



⚠ 注意

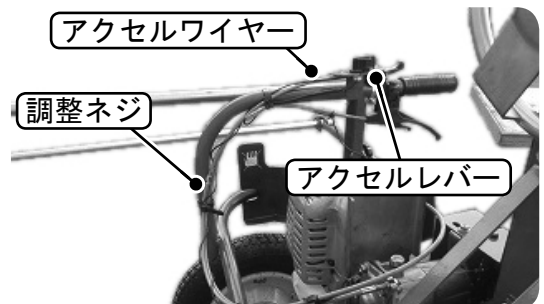
クラッチワイヤーの調整をする時は、必ずエンジンを停止してください。
これを怠るとハンドル㊦(ロール)が急に回転し、ケガをする恐れがあります。

■アクセルワイヤーの点検

アクセルレバーを操作して、正常に回転の上げ下げができるかを確認します。

重要

- ワイヤーを張り過ぎると、エンジンの「低速」が効かなくなりますので、注意してください。



⚠ 注意

アクセルワイヤーの調整をする時は、必ずエンジンを停止してください。
これを怠るとハンドル㊦(ロール)が急に回転し、ケガをする恐れがあります。

サービス資料

主要諸元

| | | |
|------------------|-------------------------|--|
| 名 称 | | みのる シート巻取機 |
| 型 式 | | W-7 |
| 区 分 | | W-72 |
| 機 体 寸 法 | 全 長 (mm) | 2390 ※注 1) |
| | 全 幅 (mm) | 720 ※注 2) |
| | 全 高 (mm) | 938 |
| | 重 量 (kg) | 47 |
| エ ン ジ ン | 種 類 | 空冷2サイクルエンジン |
| | 型 式 | T B E 2 7 F D |
| | 総排気量 (cc) | 25.6 |
| | 最大出力 (kw [PS]) | 0.8 {1.09} |
| | 使用燃料 | 潤滑油混合ガソリン (混合比 50 : 1) |
| | 燃料タンク容量 (ℓ) | 0.6 |
| | 点火方式 | CDI 式 (進角付) |
| | 始動方式 | リコイル式 |
| 適 応 条 件 | 適応シートの種類 | 農業用(ポリ塩化ビニール) |
| | 取付可能紙管径 〔外径×内径〕 (mm) | 農業用(ポリ塩化ビニール): 72X59 |
| | 巻取可能シート幅(巾×長×厚) | 巾 =2.3m 以下, 長 =100m 以下, 厚 =0.1 mm以下 |
| | 巻取可能シート径 (mm) | ~ 400 |
| | 作業能率 (m/分) | 25 ~ 45 |
| | 作業方式 | 定置作業、軽トラック搭載静止作業 |
| | 付 属 品 | 取扱説明書 (本書), 取扱説明書 (エンジン), 組立要領書, 保証書, ロール受ポス 36(★), ロール外 36(★), ロール中 36(★), BOX レンチ, 六角レンチ, オイルゲージ |

※注 1) スライドパイプ収納時

※注 2) ガイドパイプ収納時

★印付属品について詳細は、9 ページ「ロール(外・中)・ロール受について」参照。

◆純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。

市販類似部品をお使いになりますと、機械の不調や機械の寿命を短くする原因になります。

◆純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、本機に一番マッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷しておりますので、安心してご使用いただけます。

類似部品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

オプション部品

オプション部品として下記のものを準備してあります。
オプション部品のご購入および取付は、必ず販売店へご相談ください。

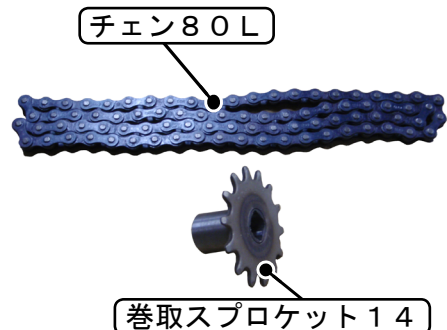
■チェン80L・巻取スプロケット14

巻取りスピードが1.2倍速くなります。
チェン80Lと巻取スプロケット14をセットで使用してください。

【作業能率 32～58(m/分)】

⚠ 注意

チェン80L、巻取スプロケット14を取付ける時は必ずエンジンを停止してください。

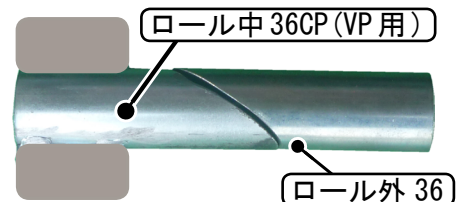


■ロール中36CP (VP用)

塩ビパイプを使用してのシート巻取り作業用の部品です。

⚠ 注意

ロール中36CP (VP用) に交換する時は、必ずエンジンを停止してください。



* 塩ビパイプを芯としてシートを巻き取る時は作業前に回収に十分な数の塩ビパイプを準備してください。

(VP40、VP50 塩ビパイプを使用)

* 塩ビパイプには、端部に右図のように切込みを入れてください。

* 塩ビパイプのたわみ防止のため、補助パイプを用意してください。

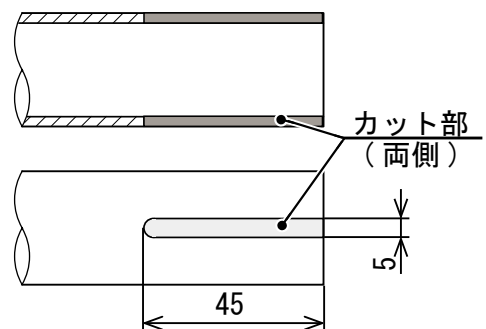
補助パイプは、お買い上げいただいた販売店等に相談し、準備してください。

* 補助パイプはシート幅に合わせてパイプ長さを調節してください。

* 寸法C (鉄パイプ外径) は、用意した塩ビパイプの内径より少し小さいものを使用してください。

* 寸法D (鉄パイプ内径) は、φ 32～φ 35mm 程度のものを使用してください。

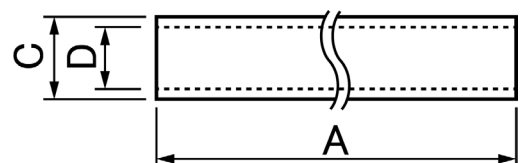
● 塩ビパイプ切込み寸法



● 補助パイプ (鉄パイプ)

(例)

シート幅 2.0 mの時 A = 2230 ± 10mm
シート幅 2.3 mの時 A = 2530 ± 10mm



■アース棒CP

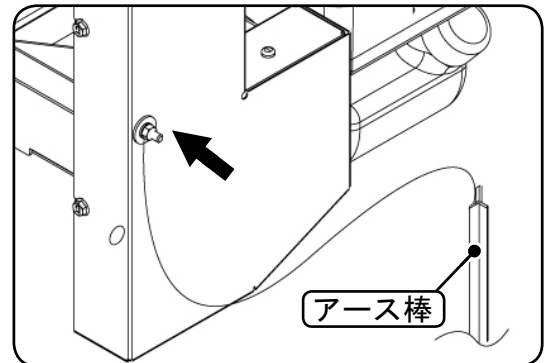
作業条件によりシート巻取り時に静電気が発生する
場合に使用します。



注意

アース棒CPを取付ける時は、
必ずエンジンを停止してください。

* アース棒の丸端子を右図の位置に取付けてください。





みのる 産業株式会社

本 社 工 場 〒709-0892 岡山県赤磐市下市447 TEL. (086)955-1122 (代) FAX. (086)955-5520
東 京 支 店 〒337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野210 TEL. (048)683-9451 (代) FAX. (048)683-9452
長 野 支 店 〒389-1104 長野県長野市豊野町浅野582-4 TEL. (026)257-6530 (代) FAX. (026)257-6531
徳島営業所 〒771-1151 徳島県徳島市応神町古川字東 197 TEL. (088)641-2311(代) FAX. (088)641-2324
九 州 支 店 〒818-0066 福岡県筑紫野市大字永岡1020-1 TEL. (092)921-6006 (代) FAX. (092)921-6008
ホームページ <https://www.minoru-sangyo.co.jp>